

GRADUATE OF SHIMANE UNIVERSITY

利益を“と考える農業者の方に、提案を受け入れてもらうことは簡単なことではありませんが、農業者に技術を体験してもらって効果を実感し、これなら続けられると思ってもらえたらと思っています”。

専門高校から島根大学に進学し、学びを深めるなかで普及指導員を目指し現職についた岩谷さん。普及指導員の仕事は、農業者の方々の協力が必要不可欠です。「同級生と出会ったときに仕事の話になって『作業してくれる人みんなが動いてくれるから、現場を管理する立場の自分は仕事ができる』と言っていて、まさに普及指導活動もよく似ています。主役の農業者の方々が私の提案に納得して試行してくれるので成果が出て、それが農業者にとってのプラスにつながります」。農業者への理解と尊敬、自らの学びと経験から生まれる信頼関係を大切に、俯瞰的視点で事業を遂行しています。



揉まれて学ぶ、挑戦する力をつける
大学の地域人材育成コース

島根大学在学中に岩谷さんに大きな影響を与えたのが「地域人材育成コース」の存在です。地域人材育成コースでは、専門性を生かしながら地域と協働し、課題解決に取り組める人材を育成することを目的としたもので、岩谷さんはこのコースでの学びの中で今まで出会ってこなかった経験や恩師に刺激を受けたと言います。「新しいものを作りだすとき、ゼロから考えないといけないと思っていた私にとって『組み合わせを変えるだけでも新しいものになるんだよ』と恩師からいただいた言葉は衝撃的でした。小さな挑戦ができるようになったり、発想の転換もうまくできるようになったりと自分の中での転機となりました。また、コースの活動で学外に出ると、学生であっても周りからは専門人として見られます。だから、わかりません。は通じないので授業にも自然と力が入りました。そこで研究や体験を繰り返していくうちにノウハウも身に付いたと思います」。

在学中の学びで、岩谷さんの一番の収穫はコミュニケーション力。学外に出ているいろいろな人と関わり活動する中で、聞く、伝えるということが積極的にに行ってきた経験は今でも財産となっています。「農業者のほとんどが年上の方で、経験も豊富です。いろいろな年齢、所属の方々と数多く接してきたおかげで、社会人一年目から現場で活動できたので、学生時代の経験が生きていると感じます」。今でもまず聞く、そして伝えるを大切に技術の普及活動に従事しています。

目に見える結果とやりがい

農業者への支援に加え、農協や市町村等の関係機関とのやりとりも仕事の一つです。各機関の調整役となることは関わる人が多くなる分大変ですが、収量の増加や品質の向上といった目に見える結果が出ると達成感を得られるそうです。

一方、農業者にとっては自身の生計が関わってくることもあり、提案する際はより丁寧な説明が必要となります。相手の立場に立ち、誠実で一貫性のある岩谷さんの行動は高く評価されています。「感謝されたり、『岩谷くんに対応してほしい』と言ってもらえたりすることはやりがいにつながっています」。その屈託のない笑顔で話す姿は世代を超えて農業者から愛され、確かな信頼関係を築きながら、島根の農業発展を支える若き人材として更なる活躍が期待されます。

活躍する卒業生



島根県西部農林水産振興センター 岩谷 凌さん

島根大学 生物資源科学部・農林生産学科2023年3月卒業



食の未来を守る農業に向き合う

現場のリアルを知り
省力化技術の導入による
持続可能な農業の実現へ

『島根県西部農林水産振興センター（県央事務所）』の邑智農業部に勤務して農業指導に携わっている岩谷さんは、近年の気候変動や農業者の高齢化といった現場の課題を解決し、農業の持続可能性を高めるため、省力化技術の導入に注力しています。特に水田への施肥作業は収量に直結しますが、重い機械を背負って水田に入ることもあり、農業者にとって負担となっています。そこで、灌漑水を利用して水田に肥料を流し込む追肥法など、新たな手法の提案を通じて島根の農業発展を支える存在となれるよう働いています。「研究は手間や時間、費用を要します。」少ないコスト・労力で最大の



島根県西部農林水産
振興センター（県央事務所）

島根県邑智郡川本町大字川本265-3

https://www.pref.shimane.lg.jp/seibu_norin/

島根県西部地域における農林水産分野の振興を担う機関。
情報提供・相談窓口として、農業・畜産業の技術指導および
必要な実証・研修の実施、就農者の育成等を行う。

